

紙 上 発 表 の 部

1 主題設定の理由

第2次宮崎県教育振興基本計画では、「地域と学校の連携・協働の推進」の「取組2-4 学校からの情報提供の充実」の項目において、日ごろから学校からの適切な情報提供を推進することが記載されている。

第2次宮崎市教育ビジョンにおいては、基本目標3「地域・家庭・学校が連携した教育の充実」の主な施策3「開かれた学校づくりの推進」の中で「子どもたちが、安心して充実した学校生活を送ることができるようにするため、学校と家庭・地域が連携して取り組む、開かれた学校づくりを推進します。」と記載されている。Webページの開設等で学校からの情報発信力を高め、いくことを目指している。

また、本年度は新型コロナウイルス感染症予防のために、学校における様々な行事等が中止になったり、教育活動が変更になったりと対応する状況が時々刻々と変化し、保護者や地域への早急な情報提供を必要とする場面が多々ある。そこで、正しい情報を早く保護者や地域へ提供し、信頼される学校づくりのために教頭の関わり方を明らかにしたいと考え本主題を設定した。

2 研究のねらい

保護者や地域に信頼される学校づくりのために、学校からの様々な情報を提供するための手立てについて教頭の関わり方を明らかにする。

3 研究の概要

(1) ホームページの定期的な更新

〔具体的な取組〕

① 保護者に向けた学校からの様々な連絡や情報提供

保護者に向けた学校からの連絡等について、紙媒体による情報提供を行うとともに、ホームページ上でも情報提供を行った。紙媒体をPDFにして添付し、いつでも見ることができるようにしたり、一番伝えたい内容を分かりやすいフォントで掲載したりした。

② 日常における児童の活動の紹介

児童の学習や生活の様子を紹介した。定期的に写真とコメント付きで掲載した。学校での日常の様子をいち早く保護者に伝えるとともに、現在行っている教育活動の内、特に力を入れて取り組んでいることを伝えた。

③ 給食日記

毎日の給食の献立や実際の写真を掲載し、一言コメントを入れて掲載した。また、食育に関する情報提供を行った。

〔教頭の関わり〕

- ・ ホームページという媒体を活用して、学校からの連絡事項がある際に、案内文と添付ファイルを掲載した。今年度は特に、感染症対策に係る記事の掲載が多かった。
- ・ 情報担当と連携し、掲載記事の検討・確認を行い、掲載内容を起案によって確認し、正確な情報を迅速に家庭・地域に届けるとともに、著作権や個人情報の取扱いに配慮した。

(2) マチコミメールの効果的な活用

〔具体的な取組〕

① 感染症対策に係る内容（臨時休業・分散登校・注意喚起など）

本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のための様々な取組を学校としては取り組んでいるが、感染症予防のための注意喚起や感染症予防に関する分散登校など、保護者に早急に伝えるべき内容で活用した。同時に、お知らせ文書をPDFにして添付した。

② 登下校時の大雨に係る内容（注意喚起・下校時刻の変更など）

大雨による下校時刻の変更や迎えの要請、注意喚起など、急を要する情報提供や依頼などがあり、状況に応じて臨機応変に活用した。

③ 不審者・声かけ事案の通知と注意喚起
不審者や声かけ事案等が起こった際には、児童の安全を最優先に考え、分かる範囲での情報提供や学校の考え方などを随時連絡した。

④ P T A 会合等の日程連絡・確認
新型コロナウイルス感染症予防のため、会議等も縮小されたが、変更などの情報提供を行った。

様々な連絡について、内容に応じて該当する学年等に情報提供を行った。

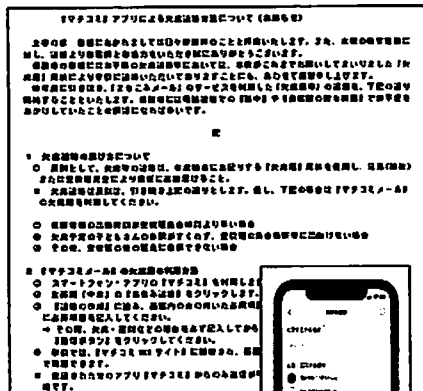
新入学児童用として就学时健康診断の際に登録をしてもらい、その後の連絡に活用した。

〔教頭の関わり〕

- ・ 様々な連絡事項に対するメッセージの作成と送信作業を行った。
- ・ 校長と発信内容を確認し、最小限の文量で、連絡事項を端的に伝えるようにしている。また、登録率が100%ではないため、未登録の保護者に電話連絡することを、担任に確認し抜けないようにしている。
- ・ 緊急を要する連絡事項について、一早く保護者に連絡する。また、マチコミメールでPDFにした文書の添付やHPと併用して連絡することで、迅速、かつ、確実に連絡できるようにしている。

⑤ 欠席届等の連絡について

児童の欠席の連絡について、「マチコミメール」のサービスを利用した「欠席届等」の運用を行っている。始業時間前後に、保護者からの電話連絡による『話中』や『長時間の待ち時間』を解消するためである。



◀「マチコミ」アプリによる欠席連絡方法のお知らせ文書▶

〔教頭の関わり〕

- ・ 保護者に向けて、通知文を配付し、協力の依頼を行った。また、毎朝、職員室にテレビを設置し、そのテレビと iPad を接続して、マチコミメールの欠席届を表示させ、学級担任が欠席の確認をできるようにした。

⑥ 外国籍児童への対応について

校区内にある大学へ留学生が家族で来日するため、外国籍の児童が在籍している。「外国籍児童」のグループを作り、英文で連絡をしている。

〔教頭の関わり〕

- ・ 日本語の文章を理解することができないため、英語で文章を作成している。

4 成果と課題

(1) ホームページの定期的な更新

- 保護者向けに緊急の連絡をしたり、児童の日常の様子を更新したりすることにより、保護者に正しい情報をいち早く伝えることができた。保護者の関心が高まったためか、更新数も日ごとに増え、4月で43,000件だったが12月に102,600件にまで伸びた学校もある。

(2) マチコミメールの効果的な活用

〔様々な連絡〕

- 緊急の連絡については、電話連絡等では難しい場合でも学年や学級を絞ったり、学校全体に一斉に送信したりすることができ、保護者への情報提供を素早くすることができた。
- PDFにした文書の添付をすることにより、より詳しい内容をお知らせすることができた。
- 実際には保護者がその連絡を確認したかまでは把握できないため、全員への情報提供がすべて行われたかどうかまでは確認できない難しさがある。
- 停電やマチコミメールの一斉活用の際、機器対応不能の事態も想定される。
- 活用する際、内容の精選が必要である。

〔欠席等の連絡〕

- 朝の電話連絡が少なくなり、始業時間前後の保護者からの電話連絡による“話中”や、“長時間の待ち時間”はかなり解消された。

1 主題設定の理由

現在、急激な少子化・高齢化が進み、2008年をピークとして人口減少局面に入っている。

今後、更に人口減少に拍車がかかり、今世紀中に半減する水準となる。更に、地方と都市部の経済格差の広がり、若い世代の地方流出を招き、延岡市も急激に人口が減少している。さらに、都市化・過疎化の進行や家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等を背景とした地域社会等のつながりや支え合いの希薄化が進んでいる。

家庭では、核家族やひとり親家庭、共働き世帯の増加など、家族形態の変容やつながりが希薄化している。これらを背景として、貧困問題の深刻化、子育ての不安や問題を抱え孤立する保護者の増加、児童虐待の増加など、家庭教育が困難な現状が指摘されている。

地域社会や家庭を巡る問題が深刻化している中、多様な価値観を持った人々との交流や体験の減少などを背景として、子どもたちの規範意識や社会性、自尊意識等に対する課題、生活習慣の乱れによる学習意欲や体力・気力の低下の課題等が指摘されている。また、学校を取り巻く環境は複雑化・困難化しており、いじめや暴力行為等の問題行動の発生、不登校児童生徒数、特別支援学級・特別支援学校に在籍する児童生徒数等の増加など、多様な児童生徒への対応が必要な状況である。

このように様々な問題を抱えている地方都市は、コミュニティ・スクールを設置し、地域ぐるみで子どもの育ちを見守り、地域も学校とともに活力を高め、ともに安心して生活できる地域コミュニティづくりを推進していかなければならない。

この取組を深化・充実させるための教頭の関わり方について以下の3点に取り組んでいく。

- ・ 中学校区で育成すべき資質・能力の明確化
- ・ 教育課程を介した学校と地域の目標共有
- ・ 地域の人的・物的資源の活用し、連携しながら開かれた学校教育を展開

2 研究のねらい

地域の人々とめざす子ども像を設定し、子どもと地域がともに元気になるコミュニティ・スクールを実現する。

3 研究の概要と成果

(1) 研究仮説

中学校区で目指す子ども像を明確にし、人的・物的資源を効果的に活用すれば、活気あるコミュニティ・スクールにすることができるのである

う。

(2) 研究の実践

① 「めざす子ども像」の明確化

教頭は、熟議が深まるように検討内容等に対して各校の教務主任に対して助言を行う。

ア 熟議

「めざす子ども像」を中学校区で明確にするために、区長や学校評議員とともに検討した。その後、「あいさつ・礼儀」、「自主・自立」、「思いやり」など6項目に絞られた。その後、教頭は重要度ランキングによる意見交換を組み込むなど熟議の活性化を図るための手立てを講じた。

イ みなみの風

(南中校区学校運営協議会準備委員会)

熟議を受け、区長などが重要と考える資質等を検討し、「めざす子ども像」を明らかにした。これを、教育課程に反映していくこととした。



【図1 中学校区のめざす子ども像】

② 学校運営協議会の活用

教頭は、既存の学校評議員を活用して学校運営協議会のメンバーを選定する。これまでの校評議員を小学校・中学校で同一の人とする。その際、各校と連絡調整を行い、校長の承認を得てから依頼す

る。学校運営協議会は、学校行事等の教育活動全般で必要に応じて意見を求め、次年度教育課程編成に生かす。

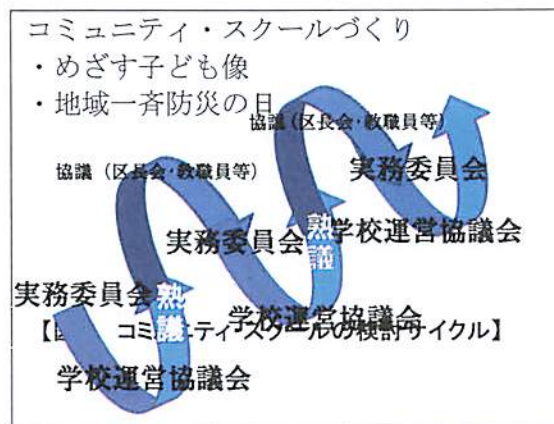


【写真1 めざす子ども像の熟議】

③ コミュニティ・スクールの共通理解と実践

地域への共通理解を図らなければ、コミュニティ・スクールの実践は進まない。また、教職員についても同様である。校長・教頭が区長会や民生委員・児童委員の会に積極的に出席し、コミュニケーションをとることとした。山間地

の小規模校では、日頃から連携がとれているが、市街地にある学校が都市部と同様に、人間関係の希薄化が進んでいる。そのため、地域と学校をつなぐために、顔見知りになることが重要である。



実務委員会・・・教頭，教務主任
 学校運営協議会・・・区長代表，PTA会長，幼稚園，元教育委員，青少協等
 熟議・・・全区長，公民館長，学校運営委員

④ 社会に開かれた教育課程のあり方

明るい未来を創造できる子どもたちを育成するために、地域の人的・物的資源の活用，社会と共有・連携しながら，開かれた教育課程を展開する。

ア 教育課程を介して目標を学校と社会で共有

熟議	当事者意識 学校や地域の課題と目標の共有
協働	学校運営に地域の人々が参画 共通の目標に向けて連携・協働
マネジメント	目標達成に向けた校長のリーダーシップ 地域人材の活用

「めざす子ども像」を明確にした上で，教務主任とともに教育課程編成を行う。熟議で出た意見を生かし，学校運営協議会のメンバーとともに教育課程の改善を図る。

イ 子どもたちの育成すべき資質・能力の明確化

子どもに必要となる①知識・技能，②思考力・判断力・表現力，③主体性，多様性，協調性，以上の3点を身に付けさせる。3点は全て重要であるが，どれに主軸を置くかは学校運営協議会の意見を聞きながら決定する。

ウ 開かれた教育課程の展開

地域の人的・物的資源を活用するために，学校運営協議会，地域支援本部，区長会等を活用する。そのための連絡調整等を教頭は行う。延岡市では令和元年度まで，年間6回の

土曜授業を利用し，その際，地域人材の活用や，地域行事への参加を行ってきた。

- ⑤ 多様な人々につながる教育課程の工夫
 教育課程編成や実際の計画・運営等で関係機関との連絡調整・担当者の支援を行う。

ア 講師派遣事業

延岡市は，総合的な学習の間にキャリア教育の一環として地域で活躍方を講師として市内各校に派遣している。また，子どもたちは，地元企業を訪問し，事業の概要やそこで働く人から働く喜びや苦勞について生の声を聞く機会を設けている。具体的には旭化成や旭有機材工業等に訪問している。

イ 礼法指導・学び方学習

延岡市キャリア教育支援センターや高等学校と連携し，学ぶことの意義や礼法指導を行っている。

ウ ミャンマーとの交流学习

ミャンマーの外交官との交流活動，修学旅行での大使館訪問を通し，自国理解と国際理解の教育実践を行っている。

令和2年度の修学旅行でミャンマー大使館訪問（自主研修活動）を実施した。



【写真2 ミャンマー公使】

⑥ カリキュラムマネジメント

生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に向けて教育課程の実施状況を評価してその改善を図っている。

ア PDCAサイクルの確立

(ア) 「運営方針の理解」

- ・ 「主体的」「対話的」な深い学びを実践するために，「思考場面」を確保し，学び合い，話し合いの活動と学校全体で取り組み，「問い」の追究を学習過程に入れる共有化を図っている。
- ・ 「指導」と「評価」の一体化を図るために，「思考」を必要とするテスト問題づくりを共通して実践している。
- ・ 学校全体だけでなく，学年団で細かい話し合いをもち，教科の進捗状況，教材，生徒指導に至るまで共有化を図っている。
- ・ 本時の「目標」と「まとめ」が視覚的にわかるように板書に明示することを全教職員で確認している。

(イ) 「来年度に向けての全体計画・年間計画の見直し」

- ・ カリキュラムのチェック機能として毎学期，実践に意義があったのか確認して

カリキュラムを修正し、関係機関との連絡調整を図る。

(ウ) 「カリキュラムの精選」

- カリキュラムに目を向け、学校の取組として継続するのか、改善・変更した方がいいのか、教頭が提案した「KPTシート」を活用しながら取り組んでいる。

行事名	目標
職場体験学習	学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生きることの難しさを実感させる。また、生徒が主体的に連絡を適切に行う態度や態度、意欲を養う。(協力)
Keep (よかったこと)	Try (Scrap & build)
事業所で礼儀や時間を守ることの大切さを指導してもらえた。	2日間では、仕事の大変さを理解できない。次年度は4月から協力事業所と相談して、3日間を確保する。その際、受け入れ不可能の事業所が予想されるため、新規の協力事業所を開発する。
Problem (問題点)	
2日間では、働くことの意義や大変さを理解することは難しい。	

【図3 KPT分析シート(例)】

イ 教育効果を高める働き方改革と教育課程

(ア) 教育課程編成チーム

- 10月から多忙感を多望感に変えるための教育課程編成チームをつくり、教育課程編成を検討している。メンバーは、校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・拠点校指導教員である。

(イ) 職員の意識変革を進める研修

- 1ヶ月の超過勤務45時間以上が大半を占め、80時間以上が過半数という現状を踏まえ、授業以外で時間のかかる業務を洗い出した。年間の行事配置や他で代替できる行事等は精選することを確認した。

令和元年10月10日
 向中学校 教育課程編成～教育効果を高めるための「働き方改革」の実践～
 教頭 三瀬浩二

1 はじめに、子どもと教師の多忙感を軽減し、教育効果を高めるために、「働き方改革」に焦点を当て、教育課程編成を行う。二

教育効果を高める働き方改革のねらい

2 年度変革の具体策(案)

(1) 区画整理カブ
 引き継ぎ(23)
 全員を対象とした

学校行事や通知表等の改善

(2) 経費削減の推進
 5月17日(金) 実施

4月29日(土)から5月1日(月)まで、家庭訪問カットにより繰り出された7時×2時間=14時間の授業は、体育大会2週間も5時間授業をしたかつ時数を10時×1時間=10時間とす。勤務時間でゾーニングも行う。実施・期星の負担も軽減である。

(3) 通知表の年々削減
 3学期制の短縮等であるが、児童生徒の学習状況を伝える通知表の配布時期を第1回9月第2金曜日、第2回10月第4金曜日とする。家庭訪問をしないかわりに夏季休業中に三者面談を行う。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				三者面談	通知表作成			通知表作成				

3月は、通知表で明らかになった課題見直しとし、全職員体制で指導する。全学年の学力テスト対策

【図4 働き方改革コンセプトと具体策】

(ウ) 地域を巻き込んだ具体的実践

- 現在、生徒や教職員が生き生きとできる取組を早期に実現するために、検討事項については、学校運営協議会や区長会とともに熟議を重ねている。また、取組事項は、区長や民生委員児童委員、地区青少協理事の会合等で情報共有しながら進めている。

実践例

- 4月家庭訪問の廃止
- 7月の三者面談実施と長期休業中の課題なし(寺子屋支援あり)ー主体的な学習
- 通知表年2回(前期・後期で評価)
- 校時程の見直し(水曜日14:20下校)
- 行事の精選(5月の体育大会実施等)

ウ 教育資源の効果的な活用

(ア) 「組織としての取組」

- 基礎学力の向上に向けて、学習クラスマッチを各教科で実施し、全教職員が取り組んでいる。1, 2年生数学については、旭化成OB「はげまし隊」によるサポートを得ている。2学期末は、「防災の日」を軸としてコミュニティ・スクールづくりを進めている。



【写真3 地域一斉活動】

(イ) 「地域人材」の活用

- 学校運営協議会や区長会、民生委員児童委員とともに朝の挨拶、見守り等を行っている。また、夏季休業中は学校で「寺子屋」(旭化成OB等による学習会)を実施している。地区によっては、小学生を集め、公民館で「寺子屋」を実施している。

(ウ) 「土曜授業」の活用

- 年間6回、地域人材を活用して教育実践している。現在、学校に来てもらうだけでなく、地域行事に生徒が参加し、中心となって活動している学校もある。運営が効果的に行えるように担当と計画を相談し、地域との連絡調整を行う。令和2年度より、コミュニティ・スクールづくりを目指し、各校のニーズに応じた教育活動に変更して実践している。

【地域行事への参加】

学校名	活動内容
北方学園	干支の町フェスタ
黒岩中	田植・稲刈り・餅つき
島野浦中	神社大祭
北浦中	下阿蘇海水浴場海開き

【島野浦中における土曜日の教育活動】

月	土曜授業の内容	時数
5月	シーカヤック教室	3
7月	魚さばき体験	3
11月	神社大祭サポート	3
12月	小中合同持久走大会	3
1月	通常授業	3
2月	立志のつどい	3

(エ) 各学校の取組（地域との連携）

【恒富中学校】

中学校区の小学校に集合させ、防災活動を実施した。避難者は体育館内で防災の講話と映像で、避難訓練の重要性を説明した。乗用カートを使用された高齢者など体の不自由な方々の支援のあり方を今後、検討していく。



【写真4 地域防災活動】

【三川内中学校】

総合的な学習の一環として、毎年、5月の連休明けに、梅木さんさんクラブの皆さんと茶摘みを行っている。製茶された茶の一部を同町内にある特別養護老人ホーム 千寿園に寄贈するなどの活動を行っている。



【写真5 茶摘み活動】

【岡富中学校】

延岡市観光協会から「延岡花物語」というイベントへの協力依頼を受け、市内中学生が製作した3000本の手作り風車を、1年生が五ヶ瀬川堤防に「かざぐるまアート」として設置した。



【写真6 かざぐるまアート】

【西階中学校】

総合的な学習の時間の一環として、学年毎で内容を設定し防災学習を実施した。中でも、3学年において西階地区で防災士ネットワークに所属している方々を招き、HUG（避難所体験）活動を行った。今後、地域住民との連携も含めて検討していく。



【写真7 HUG活動】

【北川中学校】

地域にある「家田湿原」の清掃活動を地域の方々と行った。地域の資源を知り、守ることから小中連携の活動への検討をして



【写真8 家田湿原清掃活動】

いく。

【北浦中学校】

「教育資源の効果的な活用」ミライキャンパスin北浦キャリア教育の一貫として「総合的な学習の時間」を使い6回に分けて地域の方や地域以外の企業経営者から「中学生が将来に向けて考えていくこと」を講演していただく。



【写真9 地域の先生講話】

(3) 研究の成果

- ・ 地域のめざす子ども像を明確化することで、地域とともに、ふるさとに誇りをもち、地域とともに子どもを育てる意識を高めることができた。
- ・ 教育課程において保護者や地域の意見を取り入れて編成を図ることができた。

5 今後の課題

- ・ 少子高齢化が急激に進む地域において、地域・学校がともにWIN-WINの関係を築けるように、機能的で風通しのよい学校運営協議会にしていかなければならない。
- ・ 人材活用と物的資源の準備を教頭が代わっても円滑に行えるように教育活動の企画・運営を見える化していかなければならない。

【参考文献】

- ・ 「学校の『当たり前』をやめた。」 工藤勇一 時事通信社 2018
- ・ 「クリエイティブな校長になろう」 平川理恵 教育課発研究所 2018

第1日分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題 「教育課程や学校経営に活かされる「学校評価」の在り方について」
～ 各学校の取組を通して ～

日南市教頭会小学校B班

1 主題設定の理由

平成19年10月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、平成20年度から学校評価が始まった。平成22年3月には第三者評価も盛り込んだ「学校評価ガイドライン平成22年度版」が出され、現在ほどの学校も学校評価に取り組み、年度末には評価書を作成して教育委員会へ報告している。

昨年度、日南市教頭会で実施した学校評価に関するアンケート調査によると、それぞれの学校で以下のような取組がなされていた。

- 項目については、学校の教育的課題と解決への重点方策に沿って作成している。
- 評価しにくい内容は「評価できない」という欄にチェックしてもらい、次年度以降のアンケート作成(尋ね方、内容の検討)に活かすようにしている。
- 地域の方の評価用紙は記述欄を大きくし率直な意見を自由に書いてもらうようにしている。
- 集計結果一覧表に、本年度分だけでなく過去2年分も載せており、3カ年を比較して考えたり話し合ったりできるようにしている。
- アンケートは無記名で、児童玄関に設置した回収箱に児童が入れるようにしているため、率直な意見が寄せられる。寄せられた職員個人への意見については、直接フィードバックは行わず、職員全体への指導に役立てている。
- 集計結果が分かりやすいように、質問、結果、グラフをセットにしてまとめ、考察を加えて、学校関係者評価委員や保護者に知らせるようにしている。

このように、各学校で多くの工夫がなされているものの、本来ならば、学校評価は次年度の教育課程に反映されるべきものであるが、多くの労力と時間を要する割には、教育課程

や学校経営に活かされていなくて現状である。

そこで本年度は、上記した内容の中から特に「項目については、学校の教育的課題と解決への重点方策に沿って作成している」という学校の実践を参考に、よりよい学校評価の在り方を明らかにしていくことをねらいにし、本主題を設定した。

2 研究のねらい

各学校の「学校評価」の取組を参考にし、よりよい学校評価の在り方を明らかにする。

3 研究の概要

☆ H校の実践を参考に、日南市独自の学校評価の在り方について、模索する。

【適切な項目(評価指標)の設定方法の例】

学校評価と役割達成度評価については、その年度の重点目標に向けての教育活動を実践し、それを評価・改善し、学校教育の質の向上を目指す点で共通している。

○ 学校評価の目的

学校の目標達成に向けた組織的活動についての検証及び公表という評価活動を通して学校改善による教育の質の向上を目指すとともに、保護者や地域住民への説明責任を果たす。

○ 役割達成度評価の目的

学校の目標を受け、教職員一人一人が、各組織における自己の役割達成に向けた取組について、その達成状況を評価することをとおして、自己の役割の明確化とそれに伴う学校組織のパワーアップにより、学校教育の質の向上を目指す。

役割達成度評価における個人目標は、学校経営計画をもとに、自分の所属する分掌組織や教科、学年等との関わりにお

いて設定することから、学校の目標や分掌組織の目標等と連動するものである。

重点目標の手段。ゴールイメージが役割・目標となる。

【学力向上の向上】 ・ 学力向上を目指すための授業改善 ・ 学習指導要領に基づいた授業改善 ・ 授業改善の推進	【教育活動の活性化の推進】 ・ 教育活動の活性化を図るための取組 ・ 教育活動の活性化を図るための取組 ・ 教育活動の活性化を図るための取組	【教育活動の活性化の推進】 ・ 教育活動の活性化を図るための取組 ・ 教育活動の活性化を図るための取組 ・ 教育活動の活性化を図るための取組	【教育活動の活性化の推進】 ・ 教育活動の活性化を図るための取組 ・ 教育活動の活性化を図るための取組 ・ 教育活動の活性化を図るための取組
------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------

手段・ゴールイメージをもとに評価指標を作成する。

項目番号	担当業務	期待される役割と役割達成のための手段・ゴールイメージ	困難度
1	授業改善・研究	<p>■役割・目標</p> <p>学力向上を目指した授業改善 手段・ゴールイメージ</p> <p>1 学習指導に関する週報を渡し、児童の肯定的評価80%以上を目指す。 2 研究主題の実現化を図るために、授業研究会等を計画立案し、「成果があった」「児童の姿が良かった」等の肯定的評価80%以上を目指す。</p>	4

対象	質問項目
6 学校	課程と教材のテスト平均正答率85%以上の結果
9 学校	課題において成果があり、児童の姿が良かったという教師の肯定的評価80%以上(本票)
10 児童	学習指導要領における児童の肯定的評価80%以上(本票)
11 児童	先生の授業中の感想や思いがはたいてはわかりやすい。
12 児童	先生の授業中の感想や思いがはたいてはわかりやすい。
13 学校	学習ノート等の児童学習の充実を図っている。
14 児童	各級学習の手引きを参考に学習を行っている児童70%以上(本票)
15 児童	お子さんは、各級での学習(低学年20~40分、中学年10~20分、高学年10~30分)に集中し取り組んでいます。

目標設定ミーティングでは、教職員に自分で立てた期待される役割と役割達成のための手段について説明してもらい、評価者から期待される役割や目標の内容を確認していく。このとき、組織目標との整合性、役割期待との整合性、本人の能力や将来像との整合性などの観点からも確認をしていった。個人目標と組織目標がつながっていることが、学校の発展と目標の達成に不可欠となる。

全職員とのミーティングが終了後、評価書を教頭が作成する。

評価項目	工夫実践学校	材料添削
1 学力向上を目指した授業改善	<p>教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善</p>	<p>教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善 ・ 教科書以外の授業改善</p>
2 授業改善の推進	<p>授業改善が定着しているという認識 ・ 授業改善の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 授業改善が定着しているという認識</p>	<p>授業改善が定着しているという認識 ・ 授業改善の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 授業改善が定着しているという認識</p>
3 児童学習の充実	<p>児童学習が定着しているという認識 ・ 児童学習の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 児童学習が定着しているという認識</p>	<p>児童学習が定着しているという認識 ・ 児童学習の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 児童学習が定着しているという認識</p>
1 基本科の学習指導の推進と授業改善の向上	<p>基本科の学習指導が定着しているという認識 ・ 基本科の学習指導の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 基本科の学習指導が定着しているという認識</p>	<p>基本科の学習指導が定着しているという認識 ・ 基本科の学習指導の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 基本科の学習指導が定着しているという認識</p>
2 思いやりの心育成	<p>思いやりの心を育成する活動が定着しているという認識 ・ 思いやりの心を育成する活動の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 思いやりの心を育成する活動が定着しているという認識</p>	<p>思いやりの心を育成する活動が定着しているという認識 ・ 思いやりの心を育成する活動の取り組みを評価した児童の肯定的評価 ・ 思いやりの心を育成する活動が定着しているという認識</p>
3 進歩者への支援の向上	<p>進歩者の学習の進捗状況 ・ 進歩者の学習の進捗状況 ・ 進歩者の学習の進捗状況</p>	<p>進歩者の学習の進捗状況 ・ 進歩者の学習の進捗状況 ・ 進歩者の学習の進捗状況</p>

評価方法については、目標設定ミーティングにおいて、各担当と何をどのように評価するかを確認している。数値目標については、昨年度の状況等を考慮するなど根拠を明確にして設定するようにし、校長にも相談しながら決定していった。以上の手順を踏まえることで、全職員が、学校評価に参画している意識を高めることが可能となるであろうと考える

4 成果と課題

(1) 成果

- 「学校評価」の取組に関する実態調査を通して、市内小・中学校の学校評価の現状や課題を明らかにすることができた。
- 各学校の自己評価や学校関係者による評価の内容に関する工夫点も挙げてきたので、学校評価に関する情報提供の場となった。

(2) 課題

- 日南市では、来年度から「学校運営協議会制度」が導入されることから、学校評価とコミュニティ・スクールの在り方について研究を進めていく必要がある。
- また、学校評価を教育課程に活かしていくためには、自己評価や学校関係者による評価の内容や、学校運営協議会の実施時期の検討が必要である。
- 働き方改革の観点からも、評価項目を焦点化したり、評価書の様式を市内で統一したりするなど、評価書を見やすく簡略化する必要がある。